奈良市社会教育推進計画の延長について

１　奈良市社会教育推進計画について

・計画期間　令和３年度～令和７年度

・目標「生涯学習社会の実現～持続可能なまちづくり～」

・施策の方向性

「まなぶ ～生涯学習活動の推進～」

「つながる ～学びを通した交流の推進～」

「ささえる ～生涯学習の拠点(まなび・であい・つながる場)づくり～」

２　現行計画延長期間

・現在の令和７年度末を１年間延長し、令和８年度末までとする

３　計画延長の理由

本計画は、奈良市政の根幹となるまちづくりの目標を定めた「奈良市第５次総合計画」を最上位計画とし、本市の社会教育行政の方針を示す個別計画として位置づけ、他部局も含めた関連諸計画と連携し整合性を図るものとしている。特に、奈良市教育振興基本計画とは計画期間を揃えることで、より効果的に計画を進めていくことができるため、現行計画において計画期間を合わせて取組を推進してきた。

今回、奈良市第５次総合計画の後期推進方針が令和９年度から始まることから、奈良市教育振興基本計画が計画期間を１年間延長する方向性となっているため、「奈良市社会教育推進計画」についても現行計画を１年間延長する。

４　これまでの審議について

生涯学習・社会教育が社会において果たす役割については、国において中央教育審議会にて議論されているところである（別紙１参照)。ポイントとしては、従来からの社会教育の役割である「学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりの循環を生み、持続的な地域コミュニティを支える基盤になる」ことに加えて、ウェルビーイングの実現・社会的包摂の実現・デジタル社会に対応・地域コミュニティの基盤といった役割が重要になってきている。

市でも、国の動向を踏まえて奈良市社会教育推進計画の改訂に向けて、奈良市社会教育委員会議にて「次期計画のめざす姿」や「市の現状及び課題分析」等議論を重ねている。その中で、現行計画の基本目標や「まなび、つながり、ささえる」という方向性は理念として次期計画でも継続していくこと、また現行計画で取り上げている主要な事業の中から重点的な事業を選定し、「まなび、つながり、ささえる」が相互に循環することを踏まえて指標を設定することが挙げられている。（別紙２参照）今後国の動向を踏まえつつ市として一体的に施策を進めていく。